

広島芸術学会活動報告

令和元（二〇一九）年七月一日～令和二（二〇二〇）年六月三十日

▼令和元年七月十三日

会報第一五三号を発行。

▼令和元年八月一日付で「藝術研究 2019」（年報第三十二号）を発行した。

▼令和元年八月三日

広島市立大学サテライトキャンパス（セミナールーム1）において、令和元年度総会および第三三回大会を開催した。総会参加者数は十五名、大会参加者数は三十九名。

総会は関村誠事務局長の開会のことば、青木孝夫会長の挨拶の後、末永航を議長に選出し議事を進めた。まず、第一号議案「平成三十年度事業報告並びに決算について」について、資料にもとづき事業報告および決算報告が関村事務局長からなされ、続いて、樋口聡監査および船田奇岑監査による監査の報告が船田監査よりなされ、審議の結果、承認された。次に、第二号議案「令和元年度事業計画並びに予算案について」について、資料にもとづき事業計画および予算案が関村事務局長から説明され、審議の結果、承認された。

すべての議事審議が終了後、青木会長の挨拶があり、閉会した。

大会は、研究発表（三件）とシンポジウムを行った。研究発表は、①金山和彦（倉敷市立短期大学）「具体美術協会と児童との接点について」、②鄭子路（広島大学特別研究員）「『幽玄』の詩学——日本古典資料における「幽玄」の解明——」、③山本和毅（一般財団法人下瀬美術館設立準備室）。シンポジウム（近代建築福山研究会との共催）は「近世都市・広島とその芸術文化」をテーマとし、パネリストは玉置和弘（広島城）、隅川明宏（広島県立美術館）、樹下文隆（神戸女子大学）、花本哲志（頼山陽史跡資料館）の四名、司会は菅村亨（広島大学）。

▼令和元年九月十日

会報第一五四号を発行。

▼令和元年十月十三日

第一二八回例会として、広島県立美術館にて、大島衣恵氏（喜多流能楽師）による「寿ぎの能楽——祝いの謡と舞のひとつとき」の鑑賞とアフタートークを開催。参加者数は八名。

▼令和元年十一月十五日
会報第一五五号を発行。

▼令和元年十二月十五日

広島市立大学サテライトキャンパス（セミナールーム1）において、第一二九回例会を開催した。研究発表は①和暁禪（広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期）の「性別の曖昧化から見る美意識の多様性——ACGN領域を中心としし——」、②青木隆幸（海に見える杜美術館学芸員）の「清代中国1枚摺版画の諸相」。参加者数は十八名。

▼令和二年二月二十四日
会報第一五六号を発行。

◆会員状況

令和二年六月三十日現在、法人会員二法人、個人会員百九十九名
（一般会員百三十八名、学生会員六十一名）

※文中、当学会会員については敬称を略させていただきました。また、肩書は当時のものです。

事務局